

阿蘇火山における二酸化イオウ放出量
および温泉溶存炭酸ガス濃度の推移
(1984年1月～1990年2月)*

九州大学理学部付属
島原地震火山観測所

1. 山頂火口からの二酸化イオウ放出量

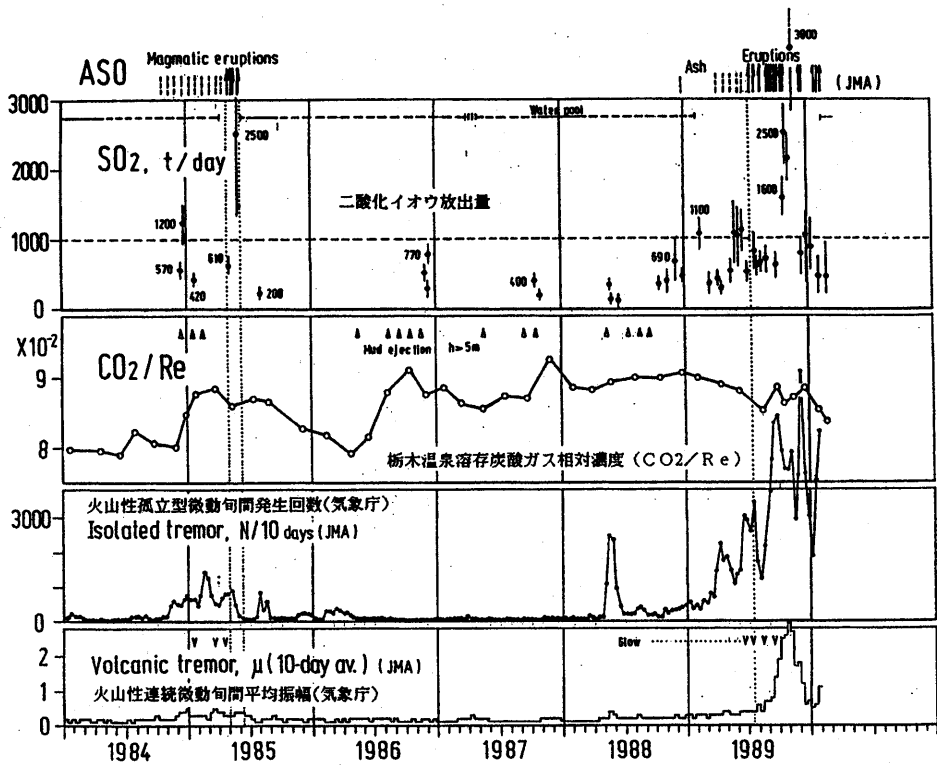
静穏期での二酸化イオウ放出量は、100 t/日以下である。今回の噴火期では、前駆的に、一時的ではあるが1000 t/日に達し、噴火期内では最高3800 t/日を記録した。1990年1月下旬より400 t/日に低下している。

2. 栃ノ木温泉、溶存炭酸ガス濃度

過去3回の噴火期では、前駆的漸増と噴火期突入後の漸減が認められている。

今回の噴火では、1986年に増加し、以後、高レベルを持続していたが、1989年になって山頂火口からの二酸化イオウ放出量の増加に対応して、一旦、溶存炭酸ガス相対濃度(炭酸ガスCO₂/蒸発残留物Re)は減少傾向を示した。噴火期間中に再び増加、1990年に入って急減しつつある。

* Received Mar. 1, 1990



第1図 阿蘇火山における二酸化イオウ放出量と温泉溶存炭酸ガス濃度の推移

Fig.1 Variation of emission rates of sulfur dioxide from the summit crater and ratios of dissolved carbon dioxide to evaporated residue in hot-spring waters from Tochinoki spa, Aso volcano.